勇　分

全ての「勇」は大きく分けて三つに区分できる。それは大勇、小勇、血気の勇である。大勇というのは、偉大な人の勇気であり、優れた将軍の心である。自らが武器を直接手に取って闘い、敵兵を打ち倒すことは無いにしても、常に勝利に導くことにより軍の実権を掌中に収め、十分に考慮し、何があっても怒りにまかせて刹那的に行動すること無く、疑ったり躊躇したりせず、一度決心すれば死生を超越し、その道義心は金石のように堅固にして輝き、数万の兵卒の勇気の消長は将軍の一身に懸かっている。これが大勇である。心が正直で常に勇気を持ち続け、悪口を言われても気に留めず、敵を見ればわが身を顧みず、筋金入りの骨身と鉄石の心ではあるが、しかしその器量は偏狭である。これを小勇という。血気は旺盛であり、勇猛さと鋭さは千人の敵に匹敵するが、信義が少ないために意志が変化し易く、死生観も定まっていないのを血気の勇という。

世の主将であるべき人が、もしも大勇の心を失い、中下の勇気ある人ばかりを好んで用いるならば、これは家を亡ぼして身をも失う基となるに違いない。私の子孫の中にも、後世でもしも家を興し、棟梁（武家社会の筆頭格）ともなるべき者が有るならば、先ずは配下の者たちの人柄を心得て、諸事の別当（官司の長官）、それぞれの役職をも、その器量に応じて申しつけ、大小や浅深など事態に応じて斟酌し、計算すれば、そこが唐の天竺であったとしても、どうして難しいことがあろうか。ましてや（人材豊富な）我が国で難しいことなどあり得ない。その中のわずか河内と泉の両国で、たとえ一人の賢人を得ただけでも、最高の敬意を払って治めなければならない。まして数万の中から、優れた人材を採ることについて怠ることが無ければ、天下の賢明な武士が雲のごとくに集まり、四海の勇士たちが剣を携えて来会し、各々その功績を挙げようと努めるであろうことは、全く疑う余地も無い。ただひたすら己を正しくして広く良く統治された国の姿を思い抱け。広く良好な統治というものは、天の心の去就に任せるものであって、あえて自ら求めてはならない。